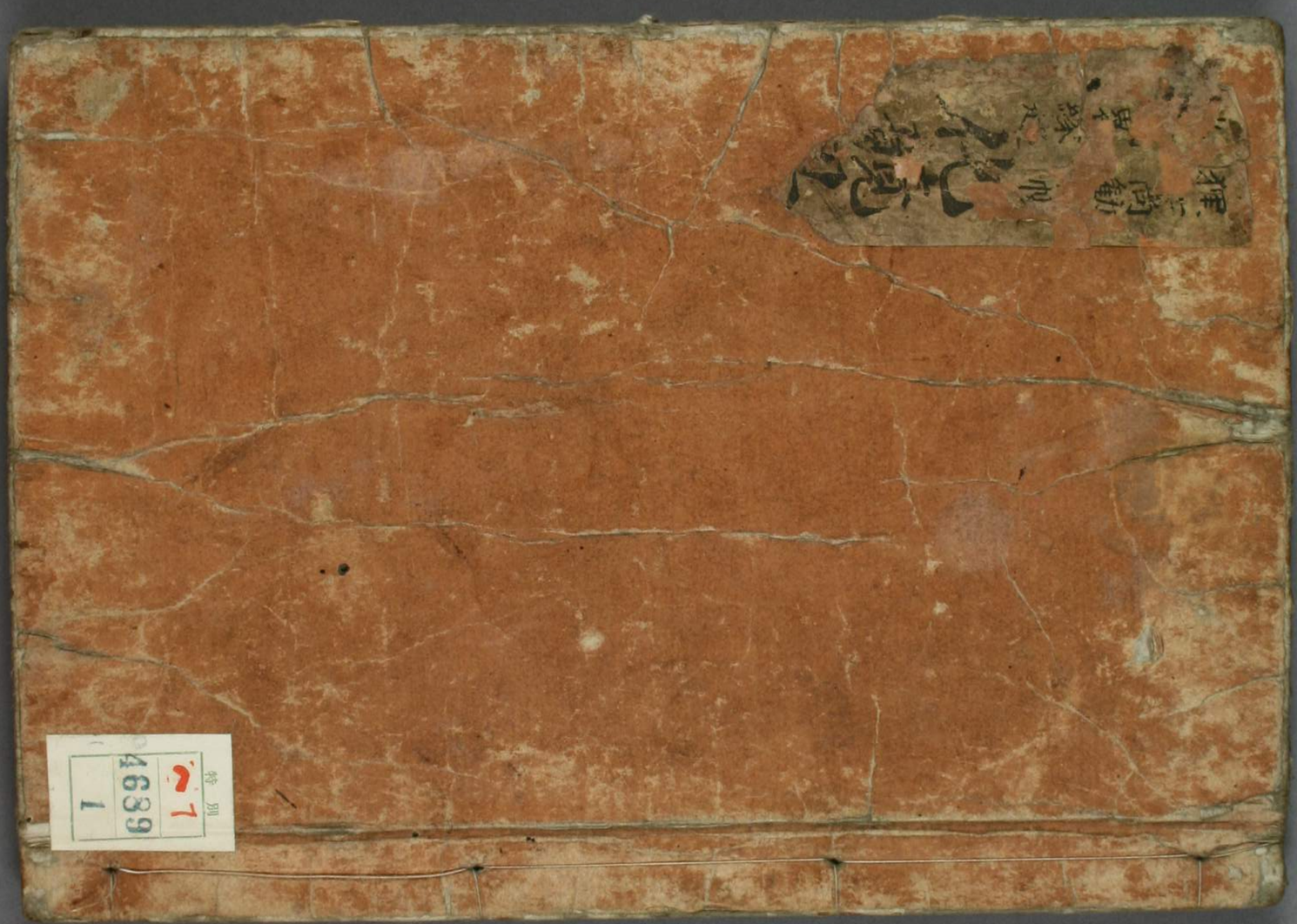
特別
4639
1

著作堂主人
馬琴先生戲編

耕書堂旧藏之杵

特 へ7 號 4699 1

社山 庫文

昭和二九 二月十二 購求

山水天狗三眼見
越の両家を乱とそ
こゝろまどひ忠臣の為よ
諫せそる

猫又の化人平

鬼武家の忠臣
静をさきの心を
吸る之を
雪友

狸和尚勧化帳
化地藏菩縁起

化競丑満鐘

曲亭馬琴老人直作
正本行蔦屋重三郎板

上の巻

化競丑満鐘

曲亭馬琴立夫直作

化の川系九版

雁の風雨を厭ふ秋の雲のもの思ひ顔なるも
のの色のうら〳〵なる春の霞の末遠きも
のの香ぐはしき秋の菊の花ざかりなどゝ
賞翫するは皆是利口の人間のみ也。三の掛物
なき床の間の寂寞を厭ふ茶人の心の流れ
くめそこなきの重箱を愛する俗
色の辛くだけたるを好む酒客

勝国神風の巻

勝閻神

二夜の宿をとりそのあくる日
老の者曽て
一つに猫あり
その次の
庇の梅の
赤き柿あり
みちの
それより

ひらめもよみなし

化競丑満鐘

そけくらべうしのつね

永久

中

さきね

差根の先化競丑満鐘

化競丑満鐘

中の巻　第拾の先祖の伝